

# リスク管理関連資料

(2016年3月期)

みずほフィナンシャルグループ



本資料には、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに関する記述が含まれております。こうした記述は、本資料の作成時点において入手可能な情報並びに事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに影響を与える不確実な要因に係る本資料の作成時点における仮定(本資料記載の前提条件を含む。)を前提としており、かかる記述及び仮定は将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

また、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに関する事項はその時点での当社の認識を反映しており、一定のリスクや不確実性等が含まれております。これらのリスクや不確実性の原因としては、与信関係費用の増加、株価下落、金利の変動、外国為替相場の変動、保有資産の市場流動性低下、退職給付債務等の変動、繰延税金資産の減少、ヘッジ目的等の金融取引に係る財務上の影響、自己資本比率の低下、格付の引き下げ、風説・風評の発生、法令違反、事務・システムリスク、日本及び海外における経済状況の悪化、規制環境の変化その他様々な要因が挙げられます。これらの要因により、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。

当社の財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、決算短信、有価証券報告書、統合報告書(ディスクロージャー誌)等の本邦開示書類や当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F年次報告書等の米国開示書類等、当社が公表いたしました各種資料のうち最新のものをご参照ください。

当社は、東京証券取引所の定める有価証券上場規程等により義務付けられている場合を除き、新たな情報や事象の発生その他理由の如何を問わず、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しを常に更新又は改定する訳ではなく、またその責任も有しません。本資料は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

## 本資料における 計数及び表記の取扱い

### グループ会社の略称等:

みずほフィナンシャルグループ(FG)、みずほ銀行(BK)、みずほ信託銀行(TB)、みずほ証券(SC)、  
<みずほ>はみずほグループの総称

みずほコーポレート銀行(旧CB)、2013年7月の合併前のみずほ銀行(旧BK)

2013年7月1日、旧BKと旧CBが合併し、新しくBKが発足

**2行合算**:BK、TBの単体計数の合算値

(2013年度第1四半期までのBK計数は、旧BK、旧CBの単体計数の合算値)

**銀・信・証合算**:BK、TB、SC(含む主要子会社)の単体計数の合算値

# 目次

1. 主要なリスクと管理態勢	P. 3
2. リスク種別／エンティティ別リスク・アセット	P. 4
3. 信用リスク関連	
(1) 貸出金・リスク管理債権	P. 5
(2) 信用リスク・アセット	P. 6
4. 流動性リスク関連	
(1) 流動資産の保有状況	P. 8
(2) 資金調達の状況	P. 9
5. 自己資本関連	P. 10
(参考) リスク管理関連開示資料一覧	P. 11

# 1. 主要なリスクと管理態勢

- 当グループでは、当グループで保有するリスクを、リスクの要因別に「信用リスク」、「市場リスク」、「流動性リスク」、「オペレーショナルリスク」等に分類し、各リスクの特性に応じた管理を行っています。

各種リスク	リスクの定義	管理方法等
信用リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 与信先の財務状況の悪化等により、資産（オフバランス項目を含む）の価値が減少または消失し、当グループが損失を被るリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別案件毎に管理する「与信管理」と信用リスク顕在化の可能性を統計的な手法等によって把握する「クレジットポートフォリオ管理」の2つのアプローチで管理</li> </ul>
市場リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金利・株価・為替等の変動により損失を被るリスク</li> <li>● 市場の混乱等で市場において取引ができなくなったり、通常より著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）を含む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● VARによる限度および損失に対する限度を設定し管理</li> <li>● バンキング業務等については、必要に応じ、金利感応度等を用いたポジション枠を設定し管理</li> </ul>
流動性リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当グループの財務内容の悪化等により必要な資金が確保できなくなり資金繰りがつかなくなる場合や、通常より著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場からの資金調達に係る満期区分別の上限額等、資金繰りに関する指標を用い管理</li> <li>● 資金繰りの状況に応じて「平常時」・「懸念時」・「危機時」の区分を設定</li> <li>● 早期警戒指標をモニタリングし資金繰りの状況を管理</li> <li>● 緊急時への対応策として流動性コンティンジェンシーファンディングプランを策定。ストレステストによりその有効性を確認</li> </ul>
オペレーショナルリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部プロセス・人・システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから当グループに生じる損失にかかるリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「システムリスク」・「事務リスク」・「法務リスク」・「人的リスク」・「有形資産リスク」・「規制・制度変更リスク」・「レピュテーションリスク」を含む幅広いリスクと考え、リスク管理の基本方針をそれぞれのリスクで策定</li> <li>● リスクの量をオペレーショナルVARとして定期的に把握、管理</li> </ul>

## 2. リスク種別／エンティティ別リスク・アセット

(単位: 兆円)

### <概要>

- みずほフィナンシャルグループの2016年3月末のリスク・アセットは62.5兆円
- リスク種別では、信用リスク・アセットが57.5兆円と、全体の約9割を占める状況
- エンティティ別では、みずほ銀行(連結)が56.7兆円と、全体の約9割を占める状況

### <リスクアセット増減>

- みずほフィナンシャルグループのリスク・アセットは、2015年3月末比2.6兆円減少

	信用リスク		マーケットリスク		オペレーショナルリスク		合計	
	2016/3	2015/3比	2016/3	2015/3比	2016/3	2015/3比	2016/3	2015/3比
<b>みずほ フィナンシャルグループ (連結)</b>	<b>57.5</b>	<b>Δ1.0</b>	<b>1.6</b>	<b>Δ1.7</b>	<b>3.2</b>	<b>+0.1</b>	<b>62.5</b>	<b>Δ2.6</b>
みずほ銀行 (連結)	53.5	Δ0.4	1.0	+0.0	2.1	Δ0.0	56.7	Δ0.4
みずほ銀行 (単体)	52.3	Δ0.6	1.0	+0.0	1.8	Δ0.0	55.3	Δ0.6
みずほ信託銀行 (連結)	2.1	Δ0.2	0.0	Δ0.0	0.2	+0.0	2.4	Δ0.2
みずほ信託銀行 (単体)	2.1	Δ0.1	0.0	Δ0.0	0.2	+0.0	2.4	Δ0.1

### 3. 信用リスク関連 (1)貸出金・リスク管理債権

#### 貸出金およびリスク管理債権の状況

(単位: 億円)

2行合算	2016/3				2015/3	
	貸出金	リスク管理債権	2015/3比		貸出金	リスク管理債権
			貸出金	リスク管理債権		
国内店分、除くオフショア勘定分	555,304	7,156	△ 9,367	△ 1,617	564,672	8,774
海外店分及びオフショア勘定分	192,211	606	+7,610	△ 101	184,601	708
合計	747,516	7,763	△ 1,757	△ 1,719	749,274	9,482

#### <主な増減>

- 取引先からの返済に伴う貸出金の減少により、国内のリスク管理債権は減少
- ロイヤルバンク・オブ・スコットランドから北米のホールセール事業における貸出資産等を取得したものの、不良債権比率等へ与える影響は軽微

#### (ご参考) リスク管理債権増減内訳 2行合算

(単位: 億円)

リスク管理債権額 (期初)	9,482
① 期中発生 (+)	2,905
② 期中改善 (-)	△ 1,402
③ 期中回収 (-)	△ 2,344
④ 新規部直 (-)	△ 605
⑤ 部直からの回復 (+)	1,192
⑥ 不良債権処理 (-)	△ 1,464
リスク管理債権額 (期末)	7,763
リスク管理債権額 (増減額)	△ 1,719

#### (ご参考) 地域別貸出金(国内店分の勘定も含む) 2行合算

(単位: 億円)

	2016/3				2015/3	
	貸出金	リスク管理債権	2015/3比		貸出金	リスク管理債権
			貸出金	リスク管理債権		
アジア	68,061	245	△ 347	43	68,409	201
中南米	39,340	494	△ 2,615	△ 325	41,955	820
北米	57,621	221	697	144	56,923	76
東欧	550	12	269	△ 37	280	49
西欧	33,928	201	5,227	△ 19	28,700	220
その他	23,645	114	5,364	15	18,280	98
合計	223,146	1,290	8,596	△ 177	214,550	1,468

(注) 貸出金は銀行勘定及び信託勘定の合計、リスク管理債権は銀行勘定及び元本補填契約のある信託勘定の合計であります

# 3. 信用リスク関連 (2)信用リスク・アセット

みずほフィナンシャルグループ(連結)

(単位:兆円)

	信用リスク・アセット			EAD			リスク・ウェイト		
	2015/3	2016/3	2015/3比	2015/3	2016/3	2015/3比	2015/3	2016/3	2015/3比
内部格付手法	51.9	50.9	Δ1.0	188.7	190.1	+1.3	27.5%	26.7%	Δ0.7%
事業法人等向け	31.3	32.8	+1.4	161.7	164.9	+3.1	19.3%	19.9%	+0.5%
事業法人向け(注1)	28.1	29.5	+1.4	76.3	77.9	+1.6	36.8%	37.9%	+1.0%
格付A1-B2	13.7	14.9	+1.1	53.7	54.8	+1.1	25.6%	27.2%	+1.5%
格付C1-D3	12.5	12.6	+0.1	20.3	20.9	+0.5	61.7%	60.5%	Δ1.1%
格付E1-E2	1.3	1.5	+0.2	1.0	1.1	+0.1	127.7%	133.6%	+5.9%
格付E2R-H1	0.4	0.3	Δ0.0	1.1	0.9	Δ0.2	35.8%	34.2%	Δ1.5%
ソブリン向け	1.1	1.2	+0.1	77.9	79.8	+1.9	1.5%	1.5%	+0.0%
格付A1-B2	1.1	1.1	+0.0	77.8	79.7	+1.8	1.4%	1.4%	+0.0%
格付C1-D3	0.0	0.0	+0.0	0.1	0.1	+0.0	59.4%	60.7%	+1.2%
格付E1-E2	0.0	0.0	Δ0.0	0.0	0.0	Δ0.0	46.3%	186.8%	+140.5%
格付E2R-H1	0.0	0.0	Δ0.0	0.0	0.0	Δ0.0	62.8%	62.7%	Δ0.1%
金融機関等向け	1.8	1.8	Δ0.0	7.2	6.9	Δ0.3	25.6%	26.2%	+0.6%
格付A1-B2	1.4	1.3	Δ0.0	6.6	6.1	Δ0.4	22.1%	22.0%	+0.0%
格付C1-D3	0.3	0.4	+0.0	0.6	0.7	+0.0	60.0%	60.9%	+0.8%
格付E1-E2	0.0	0.0	Δ0.0	0.0	0.0	Δ0.0	177.2%	225.5%	+48.2%
格付E2R-H1	0.0	0.0	Δ0.0	0.0	0.0	Δ0.0	29.8%	30.2%	+0.3%
特定貸付債権(注2)	0.2	0.2	Δ0.0	0.2	0.1	Δ0.0	103.9%	125.0%	+21.1%
リテール向け	4.9	4.7	Δ0.2	13.3	12.9	Δ0.4	37.3%	36.8%	Δ0.5%
居住用不動産	3.3	3.1	Δ0.1	10.1	9.8	Δ0.3	32.4%	32.1%	Δ0.3%
適格リボルビング型	0.3	0.3	+0.0	0.4	0.5	+0.0	64.6%	64.4%	Δ0.1%
その他	1.3	1.2	Δ0.1	2.6	2.5	Δ0.1	50.9%	49.1%	Δ1.8%
株式等	8.6	7.3	Δ1.3	5.6	4.4	Δ1.1	154.4%	164.7%	+10.2%
PD/LGD方式	6.1	5.5	Δ0.5	4.8	3.9	Δ0.9	126.6%	141.6%	+14.9%
マーケットベース方式(簡易手法)	2.5	1.8	Δ0.7	0.7	0.5	Δ0.2	323.1%	325.7%	+2.6%
証券化	0.3	0.2	Δ0.0	3.3	3.8	+0.4	9.0%	7.6%	Δ1.3%
みなし計算	4.7	3.8	Δ0.8	2.0	1.7	Δ0.3	229.5%	222.0%	Δ7.5%
その他	1.8	1.7	Δ0.0	2.6	2.1	Δ0.4	70.8%	79.8%	+9.0%
標準的手法	3.4	3.6	+0.1	7.1	10.8	+3.6	48.4%	33.4%	Δ15.0%
CVAリスク	2.7	2.8	+0.0	/	/	/	/	/	/
中央清算機関関連向け	0.3	0.2	Δ0.1	/	/	/	/	/	/
合計	58.6	57.5	Δ1.0	195.9	200.9	+4.9	29.9%	28.6%	Δ1.2%

<信用リスク・アセット増減要因>  
信用リスク・アセットは、  
2015年3月末比1.0兆円減少

## ■ 減少要因

- 株式等 Δ1.3兆円  
保有株式の売却や株価下落により減少
- みなし計算 Δ0.8兆円  
保有ファンドの売却や組入資産の構成変更より減少

\*1: スロッシング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権は含まれません

\*2: スロッシング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権

(参考) 自己査定 of 債務者区分と債務者格付、金融再生法開示債権の債権区分の関係

債務者区分	格付表記	債務者格付の定義	区分	金融再生法 開示債権区分	
正常先	A1-A3	債務履行の確実性が非常に高く、与信管理上の安全性が非常に優れた水準にある先。	投資適格 ゾーン	正常債権	
	B1-B2	債務履行の確実性に当面問題なく、与信管理上の安全性が十分な先。			
	C1-C3	債務履行の確実性と与信管理上の安全性に当面問題がない先。	非投資 適格 ゾーン		
	D1-D3	債務履行の確実性に現状問題はないが、将来の環境変化に対する抵抗力が低い先。			
要注意先	E1	金利減免・棚上げを行っている等貸出条件に問題のある先、元金返済もしくは利息支払いが事実上延滞している等履行状況に問題のある先のほか、業績が低調ないしは不安定な先または財務内容に問題がある先等、今後の管理に注意を要する債務者。	デフォルト		要管理債権
	E2				
R				危険債権	
破綻懸念先	F1	現在、経営破綻の状況にはないが、経営難の状態にあり、経営改善計画等の進捗状況が芳しくなく、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(金融機関等の支援継続中の債務者を含む)。			
実質破綻先	G1	法的・形式的な経営破綻の事実が発生していないものの、深刻な経営難の状態にあり、再建の見通しが無い状況にあると認められる等実質的に経営破綻に陥っている債務者。		破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権	
破綻先	H1	法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者。			



## 4. 流動性リスク関連 (1)流動資産の保有状況

みずほフィナンシャルグループ(連結)

(単位:億円)

	2015/3	2016/3
現金預け金(中央銀行預け金を含む)	290,961	363,154
売買目的有価証券	50,420	54,679
有価証券	426,492	389,010
満期保有目的の債券	56,473	48,175
その他有価証券	370,019	340,835
国内株式	41,219	34,576
国内債券	203,284	188,744
国債	174,157	157,658
地方債	2,385	2,406
社債	26,740	28,679
その他	125,516	117,513
外国債券	100,325	97,195
その他	25,190	20,318
<b>合計</b>	<b>767,874</b>	<b>806,845</b>
うち担保に供している総額	△ 185,394	△ 177,741
<b>控除後合計</b>	<b>582,479</b>	<b>629,103</b>

(注1) 有価証券は、時価のあるものを計上しております

(注2) 担保に供している総額は、借入金、為替決済、デリバティブ等の取引の担保や先物取引証拠金等の代用として差し入れている有価証券等の金額です

### <1. 流動資産の保有状況>

- 当グループは中央銀行預け金や国債等の流動性の高い資産を多く保有
- 担保に供している等、処分上制約のあるものを除外しても、潤沢に確保しており、流動性緊急時に資金化可能

### <2. バーゼルⅢ流動性規制への対応状況>

- 当グループにおいては流動性規制で求められる高品質の流動資産(HQLA)を十分に保有
- 当社連結LCR\*1(2015年度第4四半期平均): 128.2%

#### 【流動性規制(LCR)の概要】

- バーゼルⅢ流動性規制の第一の柱として、2015年3月末より導入
- ストレス期における30日間の資金流出に耐えられるHQLAの保有が求められる
- 2016年のLCRの最低水準は70%であり、以後、毎年10%引き上げられ、2019年1月から100%となる

\*1 LCR : 流動性カバレッジ比率、Liquidity Coverage Ratio

## 4. 流動性リスク関連 (2) 資金調達の状況

### <資金調達手段の構成>

- 当グループの資金調達手段は預金、譲渡性預金が大半を占め、社債発行等により中長期の調達も実施

【2016年3月末】

みずほフィナンシャルグループ(連結)

(単位:億円)

種類	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*1)	1,012,451	34,574	7,784	739	741	-
譲渡性預金	116,918	760	603	-	-	-
コールマネー及び売渡手形	25,210	-	-	-	-	-
借入金(*2)	13,811	42,790	9,347	2,060	3,094	3,290
短期社債	6,483	-	-	-	-	-
社債(*2)	8,135	19,141	10,799	5,184	7,680	6,933
信託勘定借	50,674	-	-	-	-	-
合計	1,233,686	97,266	28,535	7,985	11,516	10,223

\*1: 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております

\*2: 借入金及び社債のうち、期間の定めのないもの(借入金640億円、社債3340億円)は含めておりません

【2015年3月末】

みずほフィナンシャルグループ(連結)

(単位:億円)

種類	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*3)	934,994	32,984	8,194	781	621	-
譲渡性預金	156,421	529	-	-	-	-
コールマネー及び売渡手形	50,911	-	-	-	-	-
借入金(*4)	9,658	11,048	43,059	1,243	3,636	2,381
短期社債	8,167	-	-	-	-	-
社債(*4)	7,499	21,066	12,503	1,937	10,259	6,470
信託勘定借	17,807	-	-	-	-	-
合計	1,185,460	65,629	63,757	3,961	14,517	8,851

\*3: 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております

\*4: 借入金及び社債のうち、期間の定めのないもの(借入金930億円、社債409億円)は含めておりません

# 5. 自己資本関連

みずほフィナンシャルグループ(連結)

(単位: 億円)

	2015/3	2016/3	2015/3比
<b>普通株式等Tier1資本 (1)</b>	61,531	<b>65,664</b>	+4,133
基礎項目	66,936	<b>73,801</b>	+6,865
資本金・資本剰余金	31,522	<b>32,670</b>	+1,147
利益剰余金	27,685	<b>31,969</b>	+4,283
社外流出予定(△)	1,005	<b>948</b>	△ 57
その他包括利益累計額	8,119	<b>9,647</b>	+1,527
非支配株主持分	612	<b>472</b>	△ 140
調整項目(△)	5,404	<b>8,137</b>	+2,732
無形固定資産	2,057	<b>3,615</b>	+1,558
退職給付に係る資産の額	2,016	<b>2,694</b>	+677
金融機関等出資	986	<b>561</b>	△ 425
<b>その他Tier1資本 (2)</b>	13,472	<b>13,386</b>	△ 86
基礎項目	14,635	<b>14,534</b>	△ 101
その他Tier1資本調達手段	-	<b>3,000</b>	+3,000
適格旧Tier1資本調達手段	14,581	<b>11,440</b>	△ 3,141
非支配株主持分	295	<b>308</b>	+12
為替換算調整勘定	△ 242	<b>△ 214</b>	+27
調整項目(△)	1,163	<b>1,148</b>	△ 15
無形固定資産	529	<b>201</b>	△ 328
金融機関等出資	506	<b>886</b>	+379
<b>Tier1資本 (1) + (2) (3)</b>	75,003	<b>79,050</b>	+4,047
<b>Tier2資本 (4)</b>	20,081	<b>17,335</b>	△ 2,745
基礎項目	21,838	<b>18,467</b>	△ 3,370
Tier2資本調達手段	3,304	<b>4,935</b>	+1,631
適格旧Tier2資本調達手段	11,088	<b>9,629</b>	△ 1,458
非支配株主持分	92	<b>102</b>	+10
その他有価証券の含み益	6,717	<b>3,350</b>	△ 3,366
土地再評価差額	590	<b>389</b>	△ 201
調整項目(△)	1,757	<b>1,132</b>	△ 625
金融機関等出資	1,616	<b>1,072</b>	△ 543
<b>総自己資本 (3) + (4) (5)</b>	95,084	<b>96,386</b>	+1,301
リスク・アセット	651,919	<b>625,311</b>	△ 26,607
<b>普通株式等Tier1比率</b>	9.43%	<b>10.50%</b>	+1.07%
<b>Tier1比率</b>	11.50%	<b>12.64%</b>	+1.14%
<b>総自己資本比率</b>	14.58%	<b>15.41%</b>	+0.83%
<b>レバレッジ比率</b>	3.83%	<b>3.98%</b>	+0.15%

## <2015年度の調達・償還等の主な実績>

### ■ 普通株式等Tier1資本

2015年度連結当期純利益<sup>\*1</sup>: 6,709億円

第11回第11種優先株式の普通株式への転換: 1,142億円

(第11回第11種優先株式の2016年3月末残高: 989億円)

<sup>\*1</sup>: 親会社株主に帰属する当期純利益

### ■ その他Tier1資本

#### 【調達】

国内永久劣後債の発行: 3,000億円

#### 【償還】

優先出資証券の償還: 4,525億円

### ■ Tier2資本

#### 【調達】

国内公募劣後債の発行: 500億円

海外募集劣後債の発行: 7.5億ドル

#### 【償還】

国内公募劣後債の償還: 1,000億円

## (参考) リスク管理関連開示資料一覧

	統合報告書	(US GAAP) Form 20-F	(Pillar 3) Form 6-K	リスク管理 関連資料	会社説明会 補足説明資料
	2016/3	2016/3	2016/3	2016/3	2016/3
<b>リスク管理全般</b>					
リスク管理態勢(全般)	P.78	P.169-170			
主要なリスクと管理態勢	P.113-129	P.169-189		P.3	
リスク・キャピタル配賦状況	P.114-115	P.170			P.12
リスクアベタイト・フレームワーク(RAF)	P.74				
<b>信用リスク関連</b>					
信用リスク管理について	P.116	P.171			
信用リスクに関するエクスポージャーの状況	P.373		P.19		
信用リスク・アセット(格付別データ付)	P.377		P.28, 29	P.6	
信用リスク削減手法	P.380		P.33		
派生商品取引および長期決済期間取引の取引相手のリスク	P.380		P.34		
貸出金・リスク管理債権等	P.182-196	P.A-8, A-10, F-29		P.5	
自己査定債務者区分と債務者格付、金融再生法開示債権の債権区分の関係	P.117	P.F-30	P.18	P.7	
証券化エクスポージャー	P.382		P.36		
銀行勘定における株式等エクスポージャー	P.398		P.59		
<b>市場リスク関連</b>					
市場リスク管理について	P.120	P.175			
市場リスクの状況(リスク量等)	P.121	P.176-181			
アウトライヤー基準	P.123	P.181	P.78		P.12
<b>流動性リスク関連</b>					
流動性リスク管理について	P.124	P.183			
流動資産の保有状況	P.227	P.A-2		P.8	
社債、借入金、その他の有利子負債の返済予定額	P.229	P.F-41-44		P.9	
<b>オペレーショナルリスク関連</b>					
オペレーショナルリスク管理について	P.126	P.185			
<b>自己資本関連</b>					
自己資本の構成	P.364	P.102-106	P.6	P.10	
ポートフォリオ区分別所要自己資本額	P.372		P.16		
リスク種別/エンティティ別リスク・アセット	P.372, 416, 447, 479, 509			P.4	